



業況 DI は 4.0 ポイントの上昇、製造業全般で改善

～令和6年10－12月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和6年10－12月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は上昇 ～

総合の業況 DI は、前期比 4.0 ポイント上昇の▲21.7 となりました。

一方、今後については3ヵ月後が現在比 4.2 ポイント低下の▲25.9、半年後も同 5.5 ポイント低下の▲27.2 ポイントといずれも低下を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況 DI、製造業全般で改善 ～

製造業の業況 DI は前期比 10.0 ポイント上昇の▲20.3 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 3.6 ポイント上昇の▲18.0）、電気機械（同 10.3 ポイント上昇の▲15.9）、輸送用機械（同 14.4 ポイント上昇の▲18.9）といずれも上昇しました。

建設業の業況 DI は同 5.9 ポイント上昇の▲3.2 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は同 0.7 ポイント低下の▲27.1 となりました。内訳を見ると、卸売業が上昇（同 13.5 ポイント上昇の▲17.8）した一方、小売業（同 1.0 ポイント低下の▲37.4）、飲食店（同 2.6 ポイント低下の▲16.0）及びサービス業（同 11.2 ポイント低下の▲23.1）はいずれも低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が同 0.3 ポイント低下の▲20.6、建設業が同 6.0 ポイント低下の▲9.2、商業・サービス業が同 6.1 ポイント低下の▲33.2、半年後は製造業が同 4.0 ポイント低下の▲24.3、建設業が同 12.9 ポイント低下の▲16.1、商業・サービス業が同 4.6 ポイント低下の▲31.7 となるなど、今後の見込みはいずれの業種も低下する結果となりました。

3. 規模別*特徴 ～ 小規模企業の各 DI はいずれも上昇 ～

中規模企業の業況 DI は前期比 2.3 ポイント上昇の▲17.0、小規模企業の業況 DI は同 6.0 ポイント上昇の▲27.2 となりました。売上 DI は中規模企業が同 1.6 ポイント上昇の▲3.5、小規模企業が同 10.0 ポイント上昇の▲17.4、採算 DI は中規模企業が同 4.3 ポイント低下の▲22.9、小規模企業が同 2.4 ポイント上昇の▲28.9 となりました。中規模の採算を除く各 DI は、いずれも上昇する結果となりました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、6地区が上昇 ～

地区別の業況DIでは前期より上昇したのは6地区（横浜、川崎、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）で、低下したのは2地区（横須賀、平塚）でした。特に変化の大きかったのは相模原で、前期比15.3ポイント上昇の▲15.0となりました。

3ヵ月後は、現在比で2地区（川崎、横須賀）が上昇、6地区（横浜、平塚、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）が低下を見込んでいます。

半年後では現在比で3地区（川崎、横須賀、足柄上・西湘）が上昇、その他の5地区（横浜、平塚、藤沢、相模原、厚木）が低下を見込んでいます。

5. その他（経営状況、主なコメント）

～ 経営状況では「売上」が上昇 ～

経営状況では、「売上」が、総合で前期比5.4ポイント上昇の▲9.9となりました。業種別では、製造業が同6.7ポイント上昇の▲8.6、建設業は同4.2ポイント上昇の▲6.5、商業・サービス業は4.8ポイント上昇の▲11.6となりました。

コメントでは、「新規商材を扱うことにより取引先の拡張ができた。」「少し仕事が動き始めた感がありますが、まだまだ先は不透明です。柔軟に対応できる組織作りを目指しております。」などの声が上がっていました。

◇事業承継についての特別調査

1. 全体的特徴 ～承継の時期については「考えていない・しばらく予定なし」との回答が約38%で最も多く、次いで「6～10年後」、「承継済み」と続いた。後継者の対象では「子ども」が最も多い～

事業承継に関して調査したところ、承継の時期（表1）では、「すぐにでも」と回答したのは3.6%、「3年以内には」が12.9%、「4～5年後」が12.4%、「6～10年後」が16.3%、「承継済み」が14.8%、「その他」が2.3%となった一方、「考えていない・しばらく予定なし」が37.7%と4割近い回答となりました。

後継者の対象（表2）では、最も多かった回答は「子ども」で44.1%、次いで「内部昇格（親族以外の現役員・従業員）」の18.5%、これに「その他」の14.0%、「子ども・配偶者以外の親族」の10.4%、「売却（M&A）」の7.9%、「外部から招へい」の3.8%、「配偶者」の1.3%が続きました。「その他」では、「未定」、「決めかねている」との回答がありました。

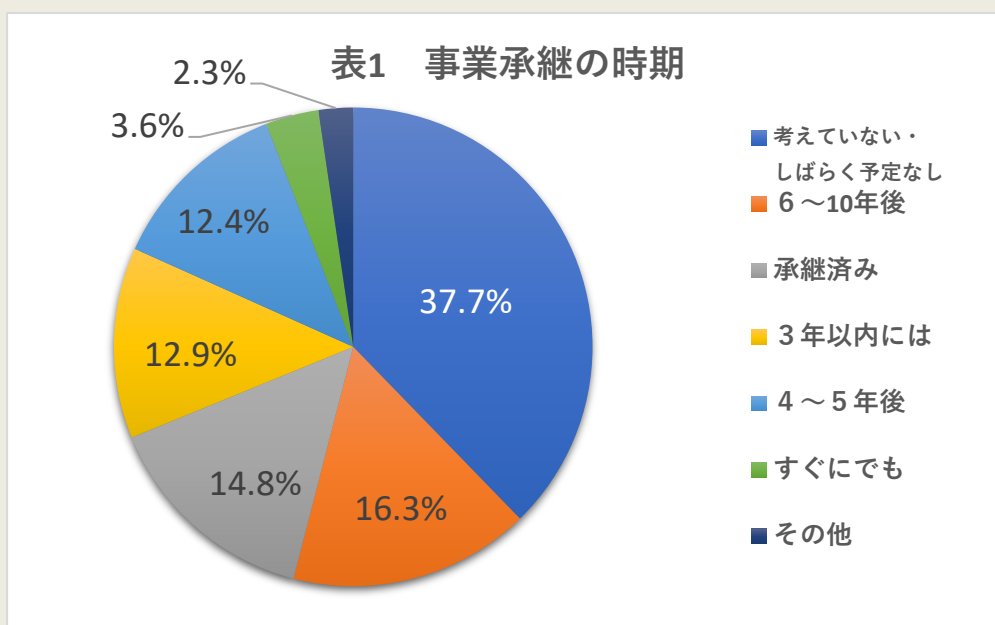
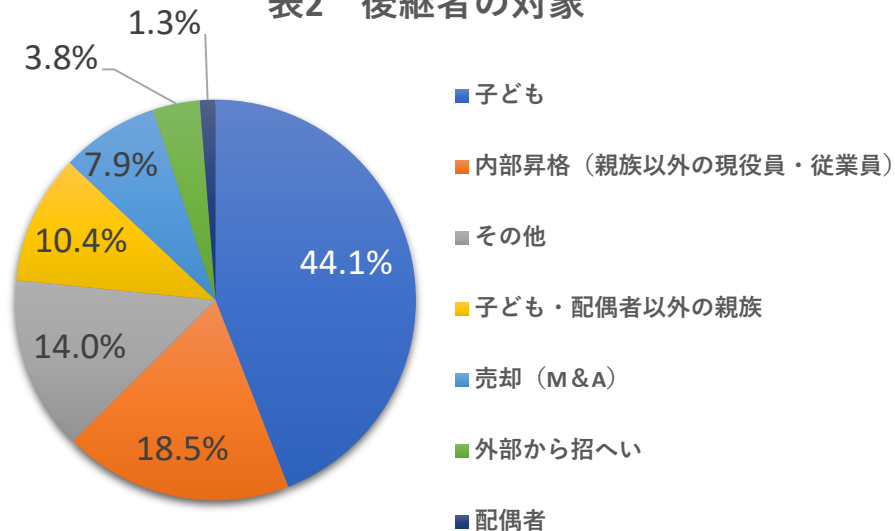


表2 後継者の対象



2. 業種別特徴 ～承継している割合は製造業が最も多い。後継者を「子ども」としている割合は、建設業が最も高い～

業種別では、現在の状況（表3）について「承継済み」と回答した割合が最も多かったのは製造業で17.4%、次いで建設業の15.3%、商業・サービス業の12.9%でした。

「考えていない・しばらく予定なし」では、商業・サービス業が最も多く41.0%、次いで建設業の34.7%、製造業の33.9%となりました。

また、後継者の対象（表4）では、「子ども」と回答した割合が最も多かったのは建設業で49.6%、次いで商業・サービス業の45.2%、製造業で40.5%となりました。

表3 事業承継の時期（業種別）

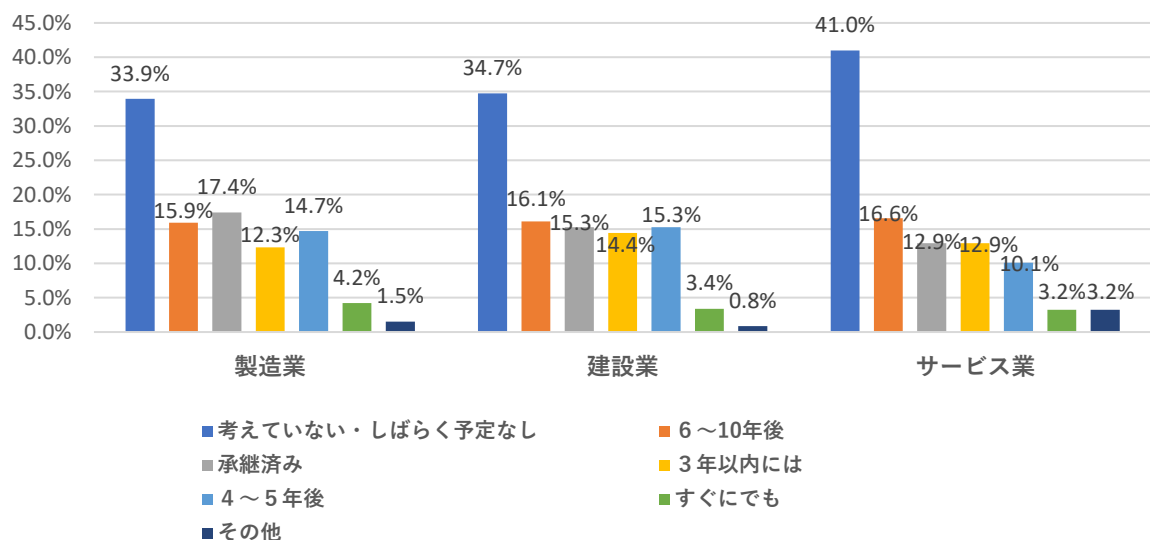
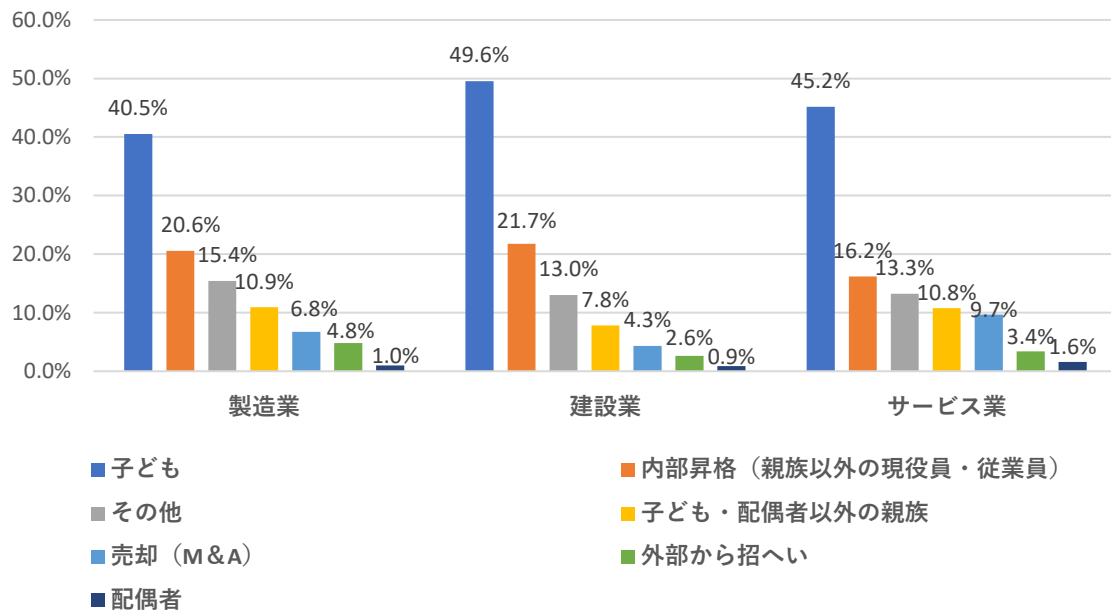


表4 後継者の対象（業種別）



【調査要領】

調査時期：令和6年11月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：1,007社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 徳田

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail kikaku@kipc.or.jp

業況 DI は 4.0 ポイントの上昇、製造業全般で改善

～令和6年10－12月期中小企業景気動向調査～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

令和6年10－12月期の調査結果をご報告いたします。

◇ 中小企業景気動向調査要旨

1. 調査結果（総合）特徴 ～ 総合の業況 DI は上昇 ～

総合の業況 DI は、前期比 4.0 ポイント上昇の▲21.7 となりました。

一方、今後については3ヵ月後が現在比 4.2 ポイント低下の▲25.9、半年後も同 5.5 ポイント低下の▲27.2 ポイントといずれも低下を見込んでいます。

2. 業種別特徴 ～ 業況 DI、製造業全般で改善 ～

製造業の業況 DI は前期比 10.0 ポイント上昇の▲20.3 となりました。中分類で見ると、一般機械（同 3.6 ポイント上昇の▲18.0）、電気機械（同 10.3 ポイント上昇の▲15.9）、輸送用機械（同 14.4 ポイント上昇の▲18.9）といずれも上昇しました。

建設業の業況 DI は同 5.9 ポイント上昇の▲3.2 となりました。

商業・サービス業の業況 DI は同 0.7 ポイント低下の▲27.1 となりました。内訳を見ると、卸売業が上昇（同 13.5 ポイント上昇の▲17.8）した一方、小売業（同 1.0 ポイント低下の▲37.4）、飲食店（同 2.6 ポイント低下の▲16.0）及びサービス業（同 11.2 ポイント低下の▲23.1）はいずれも低下しました。

また、3ヵ月後は製造業が同 0.3 ポイント低下の▲20.6、建設業が同 6.0 ポイント低下の▲9.2、商業・サービス業が同 6.1 ポイント低下の▲33.2、半年後は製造業が同 4.0 ポイント低下の▲24.3、建設業が同 12.9 ポイント低下の▲16.1、商業・サービス業が同 4.6 ポイント低下の▲31.7 となるなど、今後の見込みはいずれの業種も低下する結果となりました。

3. 規模別*特徴 ～ 小規模企業の各 DI はいずれも上昇 ～

中規模企業の業況 DI は前期比 2.3 ポイント上昇の▲17.0、小規模企業の業況 DI は同 6.0 ポイント上昇の▲27.2 となりました。売上 DI は中規模企業が同 1.6 ポイント上昇の▲3.5、小規模企業が同 10.0 ポイント上昇の▲17.4、採算 DI は中規模企業が同 4.3 ポイント低下の▲22.9、小規模企業が同 2.4 ポイント上昇の▲28.9 となりました。中規模の採算を除く各 DI は、いずれも上昇する結果となりました。

4. 地区別特徴 ～ 業況DI、6地区が上昇 ～

地区別の業況DIでは前期より上昇したのは6地区（横浜、川崎、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）で、低下したのは2地区（横須賀、平塚）でした。特に変化の大きかったのは相模原で、前期比15.3ポイント上昇の▲15.0となりました。

3ヵ月後は、現在比で2地区（川崎、横須賀）が上昇、6地区（横浜、平塚、藤沢、相模原、厚木、足柄上・西湘）が低下を見込んでいます。

半年後では現在比で3地区（川崎、横須賀、足柄上・西湘）が上昇、その他の5地区（横浜、平塚、藤沢、相模原、厚木）が低下を見込んでいます。

5. その他（経営状況、主なコメント）

～ 経営状況では「売上」が上昇 ～

経営状況では、「売上」が、総合で前期比5.4ポイント上昇の▲9.9となりました。業種別では、製造業が同6.7ポイント上昇の▲8.6、建設業は同4.2ポイント上昇の▲6.5、商業・サービス業は4.8ポイント上昇の▲11.6となりました。

コメントでは、「新規商材を扱うことにより取引先の拡張ができた。」「少し仕事が動き始めた感がありますが、まだまだ先は不透明です。柔軟に対応できる組織作りを目指しております。」などの声が上がっていました。

◇事業承継についての特別調査

1. 全体的特徴 ～承継の時期については「考えていない・しばらく予定なし」との回答が約38%で最も多く、次いで「6～10年後」、「承継済み」と続いた。後継者の対象では「子ども」が最も多い～

事業承継に関して調査したところ、承継の時期（表1）では、「すぐにでも」と回答したのは3.6%、「3年以内には」が12.9%、「4～5年後」が12.4%、「6～10年後」が16.3%、「承継済み」が14.8%、「その他」が2.3%となった一方、「考えていない・しばらく予定なし」が37.7%となりました。

後継者の対象（表2）では、最も多かった回答は「子ども」で44.1%、次いで「内部昇格（親族以外の現役員・従業員）」の18.5%、これに「その他」の14.0%、「子ども・配偶者以外の親族」の10.4%、「売却（M&A）」の7.9%、「外部から招へい」の3.8%、「配偶者」の1.3%が続きました。「その他」では、「未定」、「決めかねている」との回答がありました。

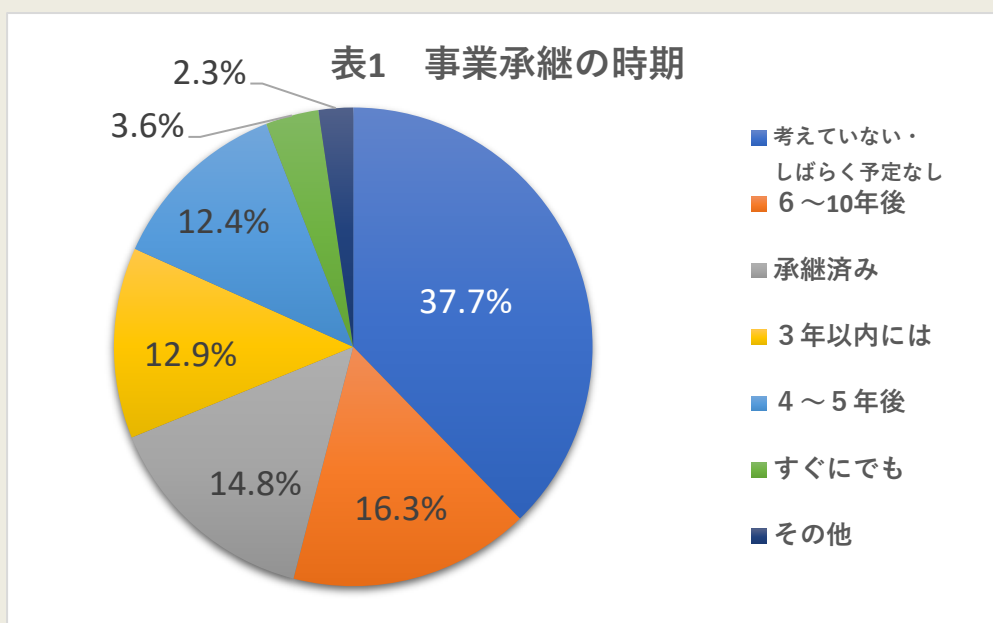
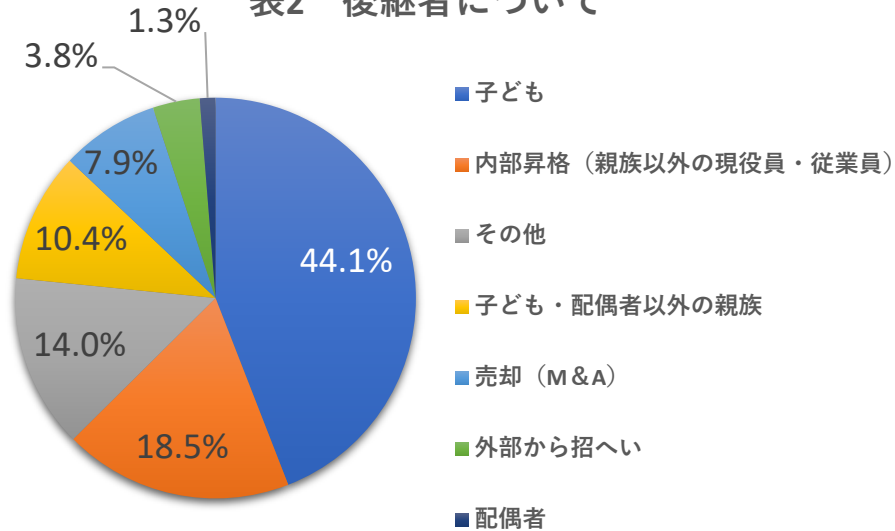


表2 後継者について



2. 業種別特徴 ～承継している割合は製造業が最も多い。後継者を「子ども」としている割合は、建設業が最も高い～

業種別では、現在の状況（表3）について「承継済み」と回答した割合が最も多かったのは製造業で17.4%、次いで建設業の15.3%、商業・サービス業の12.9%でした。

「考えていない・しばらく予定なし」では、商業・サービス業が最も多く41.0%、次いで建設業の34.7%、製造業の33.9%となりました。

また、後継者の対象（表4）では、「子ども」と回答した割合が最も多かったのは建設業で49.6%、次いで商業・サービス業の45.2%、製造業で40.5%となりました。

表3 事業承継の時期（業種別）

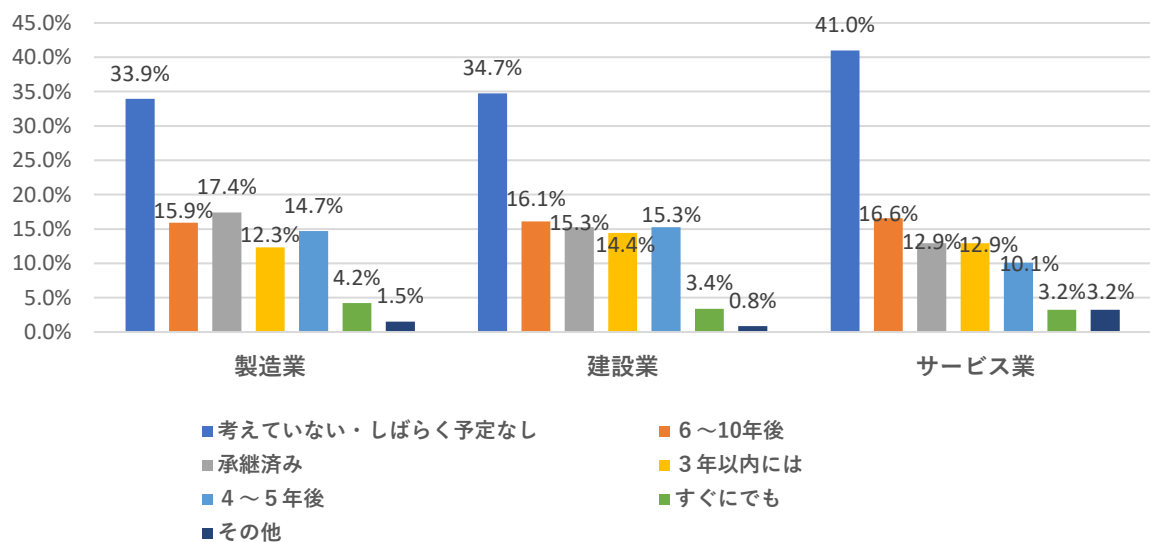
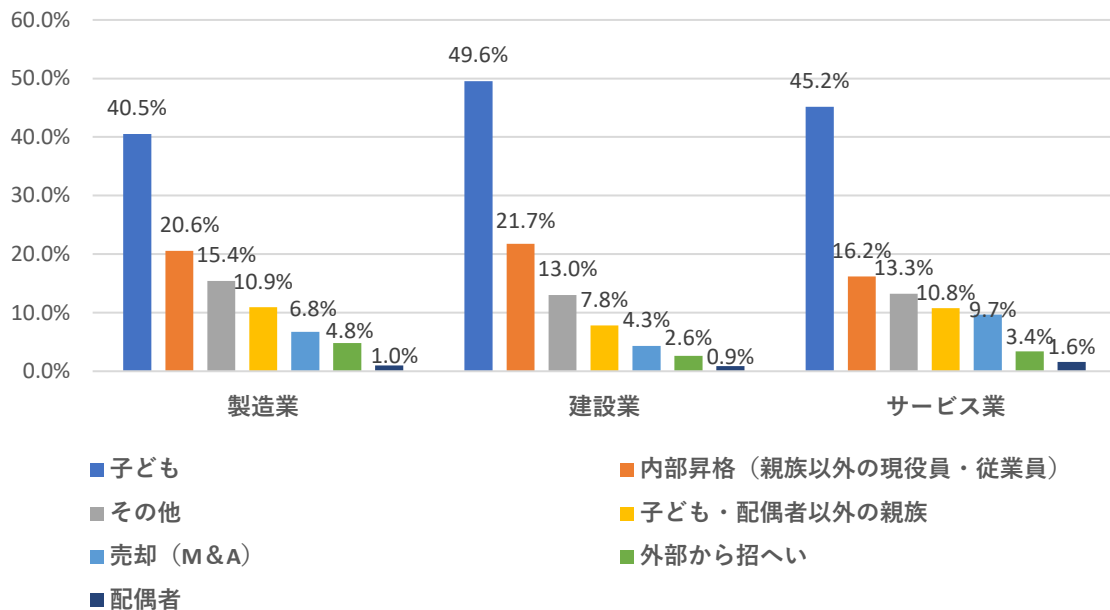


表4 後継者について（業種別）



【調査要領】

調査時期：令和6年11月 調査対象：県内中小企業2,000社 回答数：1,007社

* 中規模／小規模

製造業・建設業：300人以下／20人以下、商業・サービス業：100人（小売業は50人）以下／5人以下

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

総務部企画広報課 徳田

TEL 045-633-5101 FAX 045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail kikaku@kipc.or.jp

令和6年10-12月期中小企業景気動向調査結果

1. 調査要領

- ・調査時期：令和6年11月
 - ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
 - ・回答数（率）：1,007社（50.4%） ※詳細は下記の通り
 - ・調査方法：調査対象へ郵送
 - ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析
- ※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	355	64.5%
建設業	250	124	49.6%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	528	44.0%
合計	2,000	1,007	50.4%

2. 調査結果

（1）総合

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲26.3	▲26.0	▲25.7	▲21.7	▲25.9	▲27.2
売上DI	▲20.4	▲15.4	▲15.3	▲9.9	—	—
採算DI	▲30.2	▲29.8	▲24.4	▲25.7	—	—

総合の業況DIは、前期比4.0ポイント上昇の▲21.7となった。

経営状況では、売上DIは前期比5.4ポイント上昇の▲9.9、また、採算DIは同1.3ポイント低下の▲25.7となった。

今後の業況DIを見ると、3か月後は現在比4.2ポイント低下の▲25.9、半年後は同5.5ポイント低下の▲27.2を見込んでいる。

（2）業種別特徴

<製造業>

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲31.6	▲30.1	▲30.3	▲20.3	▲20.6	▲24.3
売上DI	▲24.6	▲22.3	▲15.3	▲8.6	—	—
採算DI	▲28.9	▲32.6	▲20.0	▲22.7	—	—

製造業の業況DIは、前期比10.0ポイント上昇の▲20.3となった。

経営状況では、売上DIは、前期比6.7ポイント上昇の▲8.6、採算DIは同2.7ポイント低下の▲22.7となった。

「メディカル関連が好調。」「中国、アジア向け輸出好調。（主にスマホ用ネジの金型。）」「生成AI関連の装置部品の受注が増えている。売上増加に繋がるため良い傾向ではあるが、仕入れ部品の購入が先行するため一時的に資金繰りが窮屈になる。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比0.3ポイント低下の▲20.6、半年後は同4.0ポイント低下の▲24.3を見込んでおり、「少し仕事動き始めた感がありますが、まだまだ先は不透明です。柔軟に対応できる組織作りを目指しております。」「9月までは、自動車関連、半導体関連共に堅調に推移してきたが、10月に入って半導体関連で急ブレーキがかかった感じで、大幅に増えていた受注が半減した製品もでてきている。11月から年末に向けて、業績がどうなっていくのか、全く読めない状況。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
一般機械	▲29.5	▲37.2	▲21.6	▲18.0	▲18.8	▲27.1
電気機械	▲22.9	▲22.2	▲26.2	▲15.9	▲10.1	▲10.4
輸送用機械	▲30.0	▲26.3	▲33.3	▲18.9	▲25.0	▲38.5
その他	▲39.7	▲31.5	▲37.8	▲25.2	▲26.8	▲25.0

中分類で見ると、一般機械は前期比3.6ポイント上昇の▲18.0、電気機械は同10.3ポイント上昇の▲15.9、輸送用機械は同14.4ポイント上昇の▲18.9となった。

今後の業況DIは、3か月後は一般機械が現在比0.8ポイント低下の▲18.8、電気機械が同5.8ポイント上昇の▲10.1、輸送用機械は同6.1ポイント低下の▲25.0、半年後は一般機械が同9.1ポイント低下の▲27.1、電気機械が同5.5ポイント上昇の▲10.4、輸送用機械は同19.6ポイント低下の▲38.5を見込んでいる。

<建設業>

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲2.4	▲9.0	▲9.1	▲3.2	▲9.2	▲16.1
売上DI	▲6.4	▲17.7	▲10.7	▲6.5	—	—
採算DI	▲26.4	▲25.2	▲20.5	▲18.7	—	—

建設業の業況DIは、前期比5.9ポイント上昇の▲3.2となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.2ポイント上昇の▲6.5、採算DIは同1.8ポイント上昇の▲18.7となった。

「受注は順調に推移している。人材不足の不安はあり。」「官公庁の受注増のため、来期は売上高増の見通しです。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比6.0ポイント低下の▲9.2、半年後は同12.9ポイント低下の▲16.1を見込んでおり、「受注がコンスタントに取れば、人員の補強をしていきたいところですが、人手不足の為、必要になってから募集をして、人が集められるかどうか不安なところ。」「といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
業況DI	▲28.4	▲27.5	▲26.4	▲27.1	▲33.2	▲31.7
売上DI	▲21.0	▲10.2	▲16.4	▲11.6	—	—
採算DI	▲32.0	▲29.1	▲28.2	▲29.3	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比0.7ポイント低下の▲27.1となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.8ポイント上昇の▲11.6、採算DIは同1.1ポイント低下の▲29.3となった。「一時低調だったネット通販が回復基調。実店舗は来客が減少。」「原材料費の高止まりで、利益の確保が難しくなっている。人件費の上昇で、経営を苦しくさせられている。」「人件費が高くなり、仕入額の高止まりで、困っています。米価は、前期の1.5倍。今までは大盛無料で頑張っていました。値上げしました。何だか、悔しい気分です。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3か月後は現在比6.1ポイント低下の▲33.2、半年後は同4.6ポイント低下の▲31.7を見込んでいる。「利益率が上がりず資金繰りが厳しい。借入を予定より前倒ししなければ間に合わない」と予想される。」「ここ数か月人員不足で、お客様獲得ができず、その影響で3か月後は厳しい。ただ、単価はアップしているので、売上は前年と変わらない。」「今後は、人手不足が生じて、業績不調が予想される。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
卸売業	▲34.3	▲23.2	▲31.3	▲17.8	▲29.3	▲27.3
小売業	▲41.4	▲42.5	▲36.4	▲37.4	▲44.5	▲44.0
飲食店	0.0	▲3.1	▲13.4	▲16.0	▲21.6	▲21.9
サービス業	▲16.4	▲18.5	▲11.9	▲23.1	▲23.6	▲19.8

業種別では、卸売業は前期比13.5ポイント上昇の▲17.8、小売業は同1.0ポイント低下の▲37.4、飲食店は同2.6ポイント低下の▲16.0、サービス業は同11.2ポイント低下の▲23.1となった。

今後の業況DIは、3か月後では卸売業が現在比11.5ポイント低下の▲29.3、小売業は同7.1ポイント低下の▲44.5、飲食店は同5.6ポイント低下の▲21.6、サービス業は同0.5ポイント低下の▲23.6、半年後では卸売業が同9.5ポイント低下の▲27.3、小売業は同6.6ポイント低下の▲44.0、飲食店は同5.9ポイント低下の▲21.9、サービス業は同3.3ポイント上昇の▲19.8を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和6年				令和7年	
		1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
中規模	業況DI	▲21.5	▲17.8	▲19.3	▲17.0	▲20.0	▲20.1
	売上DI	▲12.1	▲7.2	▲5.1	▲3.5	—	—
	採算DI	▲25.6	▲24.3	▲18.6	▲22.9	—	—
小規模	業況DI	▲32.2	▲35.0	▲33.2	▲27.2	▲32.9	▲35.7
	売上DI	▲30.9	▲24.5	▲27.4	▲17.4	—	—
	採算DI	▲36.0	▲35.9	▲31.3	▲28.9	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比2.3ポイント上昇の▲17.0、小規模企業は同6.0ポイント上昇の▲27.2となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比1.6ポイント上昇の▲3.5、採算DIが同4.3ポイント低下の▲22.9、小規模企業は売上DIが同10.0ポイント上昇の▲17.4、採算DIが同2.4ポイント上昇の▲28.9となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3か月後が現在比3.0ポイント低下の▲20.0、半年後が同3.1ポイント低下の▲20.1、小規模企業は3か月後が同5.7ポイント低下の▲32.9、半年後が同8.5ポイント低下の▲35.7を見込んでいる。

(4) 地区別特徴 (業況DI)

	令和6年				令和7年	
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期 見込	4-6月期 見込
横浜	▲29.6	▲29.1	▲25.9	▲22.2	▲29.0	▲32.8
川崎	▲20.6	▲27.1	▲35.1	▲27.6	▲24.4	▲26.4
横須賀	▲27.8	▲15.2	▲20.7	▲27.5	▲26.4	▲26.4
平塚	▲32.4	▲40.0	▲29.0	▲30.4	▲35.0	▲31.3
藤沢	▲31.4	▲22.6	▲17.8	▲11.9	▲21.4	▲15.3
相模原	▲26.9	▲29.4	▲30.3	▲15.0	▲22.7	▲29.6
厚木	▲23.8	▲24.8	▲17.6	▲15.8	▲20.2	▲26.5
足柄上・西湘	▲13.7	▲13.8	▲25.7	▲21.3	▲23.6	▲20.8

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比3.7ポイント上昇の▲22.2）、川崎地区（同7.5ポイント上昇の▲27.6）、横須賀地区（同6.8ポイント低下の▲27.5）、平塚地区（同1.4ポイント低下の▲30.4）、藤沢地区（同5.9ポイント上昇の▲11.9）、相模原地区（同15.3ポイント上昇の▲15.0）、厚木地区（同1.8ポイント上昇の▲15.8）、足柄上・西湘地区（同4.4ポイント上昇の▲21.3）となり6地区で上昇し、2地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比6.8ポイント低下の▲29.0）、川崎地区（同3.2ポイント上昇の▲24.4）、横須賀地区（同1.1ポイント上昇の▲26.4）、平塚地区（同4.6ポイント低下の▲35.0）、藤沢地区（同9.5ポイント低下の▲21.4）、相模原地区（同7.7ポイント低下の▲22.7）、厚木地区（同4.4ポイント低下の▲20.2）、足柄上・西湘地区（同2.3ポイント低下の▲23.6）となり2地区で上昇し、6地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比10.6ポイント低下の▲32.8）、川崎地区（同1.2ポイント上昇の▲26.4）、横須賀地区（同1.1ポイント上昇の▲26.4）、平塚地区（同0.9ポイント低下の▲31.3）、藤沢地区（同3.4ポイント低下の▲15.3）、相模原地区（同14.6ポイント低下の▲29.6）、厚木地区（同10.7ポイント低下の▲26.5）、足柄上・西湘地区（同0.5ポイント上昇の▲20.8）となり3地区で上昇し、5地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

総務部 企画広報課 徳田

TEL:045-633-5101 FAX:045-633-5018

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:kikaku@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和6年10月～12月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		355	124	101	222	75	130	528	1,007
業況判断	現在の業況	▲20.3	▲3.2	▲17.8	▲37.4	▲16.0	▲23.1	▲27.1	▲21.7
	3ヶ月後の業況	▲20.6	▲9.2	▲29.3	▲44.5	▲21.6	▲23.6	▲33.2	▲25.9
	半年後の業況	▲24.3	▲16.1	▲27.3	▲44.0	▲21.9	▲19.8	▲31.7	▲27.2
経営状況	売上	▲8.6	▲6.5	▲14.9	▲19.2	8.0	▲7.7	▲11.6	▲9.9
	採算	▲22.7	▲18.7	▲21.0	▲39.7	▲31.1	▲17.1	▲29.3	▲25.7
	引き合い／客数	▲5.5	0.0	▲13.0	▲39.1	▲2.7	▲12.5	▲22.5	▲13.7
	単価	15.2	15.3	▲2.1	▲19.8	20.3	6.3	▲4.3	5.1
	仕入価格	▲69.8	▲69.4	▲74.0	▲78.1	▲84.9	▲66.7	▲75.5	▲72.7
	資金繰り	▲24.5	▲12.2	▲13.0	▲39.3	▲35.6	▲19.4	▲28.8	▲25.2
	残業	▲7.8	▲12.2	▲9.1	▲15.4	▲6.9	▲10.2	▲11.7	▲10.4
	設備稼働	▲9.0	▲5.0	—	—	—	—	—	▲8.0
前期経営実績	売上水準	▲23.3	▲4.1	▲16.8	▲34.1	▲21.6	▲15.4	▲24.4	▲21.5
	利益水準	▲14.2	4.1	3.0	▲28.1	▲19.4	1.6	▲13.6	▲11.6
	在庫	12.0	0.9	15.2	3.7	▲1.4	▲4.3	3.3	6.1
	投資	▲6.4	▲5.9	▲8.4	▲14.0	▲16.4	▲9.2	▲12.1	▲9.3
	雇用状況	▲20.3	▲54.5	▲18.4	▲18.6	▲50.7	▲39.4	▲28.3	▲28.8

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (令和6年7月～9月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業					総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業	小計	
回収数		353	122	112	225	67	134	538	1,013
業況判断	現在の業況	▲30.3	▲9.1	▲31.3	▲36.4	▲13.4	▲11.9	▲26.4	▲25.7
	3ヶ月後の業況	▲22.0	▲8.5	▲33.0	▲39.5	▲13.8	▲19.5	▲30.0	▲24.6
	半年後の業況	▲19.8	▲11.1	▲38.9	▲39.6	▲13.8	▲21.1	▲31.6	▲25.1
経営状況	売上	▲15.3	▲10.7	▲13.4	▲29.3	▲1.5	▲4.5	▲16.4	▲15.3
	採算	▲20.0	▲20.5	▲25.0	▲34.8	▲31.8	▲17.9	▲28.2	▲24.4
	引き合い／客数	▲11.8	▲4.1	▲18.8	▲38.4	▲16.4	0.0	▲22.0	▲16.3
	単価	15.0	18.9	1.8	▲16.6	7.6	6.0	▲4.1	5.3
	仕入価格	▲69.3	▲63.1	▲77.7	▲75.7	▲90.9	▲59.5	▲74.0	▲71.1
	資金繰り	▲24.6	▲13.9	▲22.3	▲26.1	▲30.8	▲16.7	▲23.5	▲22.8
	残業	▲15.8	▲15.6	▲15.2	▲13.2	▲12.3	▲16.5	▲14.4	▲15.0
	設備稼働	▲11.8	▲3.4	—	—	—	—	—	▲9.7
前期経営実績	売上水準	▲26.7	▲0.8	▲23.2	▲32.1	▲4.5	▲7.5	▲20.7	▲20.4
	利益水準	▲7.1	13.1	0.9	▲17.0	1.5	0.0	▲6.7	▲4.5
	在庫	10.7	▲2.6	16.5	0.9	▲1.5	▲6.7	2.1	4.6
	投資	▲7.2	▲3.4	▲17.4	▲18.6	▲9.0	▲10.7	▲15.2	▲11.0
	雇用状況	▲18.1	▲43.0	▲20.9	▲23.7	▲45.5	▲34.4	▲28.5	▲26.6

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		182	173	63	61	295	233	540	467
業況判断	現在の業況	▲17.0	▲23.7	4.8	▲11.5	▲21.7	▲33.9	▲17.0	▲27.2
	3ヶ月後の業況	▲14.7	▲27.2	1.6	▲21.1	▲27.9	▲39.9	▲20.0	▲32.9
	半年後の業況	▲17.5	▲31.7	3.3	▲36.8	▲26.6	▲38.4	▲20.1	▲35.7
経営状況	売上	▲7.2	▲10.1	17.5	▲31.1	▲5.8	▲19.1	▲3.5	▲17.4
	採算	▲21.7	▲23.8	▲6.3	▲31.7	▲27.3	▲31.9	▲22.9	▲28.9
	引き合い／客数	▲0.6	▲10.8	14.3	▲14.8	▲18.8	▲27.1	▲8.8	▲19.5
	単価	16.7	13.7	15.9	14.8	▲0.7	▲8.8	7.2	2.6
	仕入価格	▲66.1	▲73.8	▲60.3	▲78.7	▲71.1	▲81.1	▲68.1	▲78.1
	資金繰り	▲22.8	▲26.3	▲1.6	▲23.3	▲26.0	▲32.3	▲22.1	▲28.9
	残業	▲4.4	▲11.3	0.0	▲25.0	▲8.4	▲15.9	▲6.0	▲15.4
	設備稼働	▲3.9	▲14.5	0.0	▲10.5	—	—	▲2.9	▲13.5
前期経営実績	売上水準	▲19.6	▲27.2	4.8	▲13.3	▲21.0	▲28.7	▲17.5	▲26.1
	利益水準	▲6.7	▲22.2	19.0	▲11.9	▲9.6	▲18.7	▲5.2	▲19.1
	在庫	16.9	6.7	▲3.2	5.5	4.2	2.2	7.7	4.3
	投資	▲1.1	▲12.2	1.6	▲14.3	▲9.3	▲15.8	▲5.2	▲14.3
	雇用状況	▲25.7	▲14.5	▲55.6	▲53.3	▲36.7	▲17.4	▲35.2	▲21.2

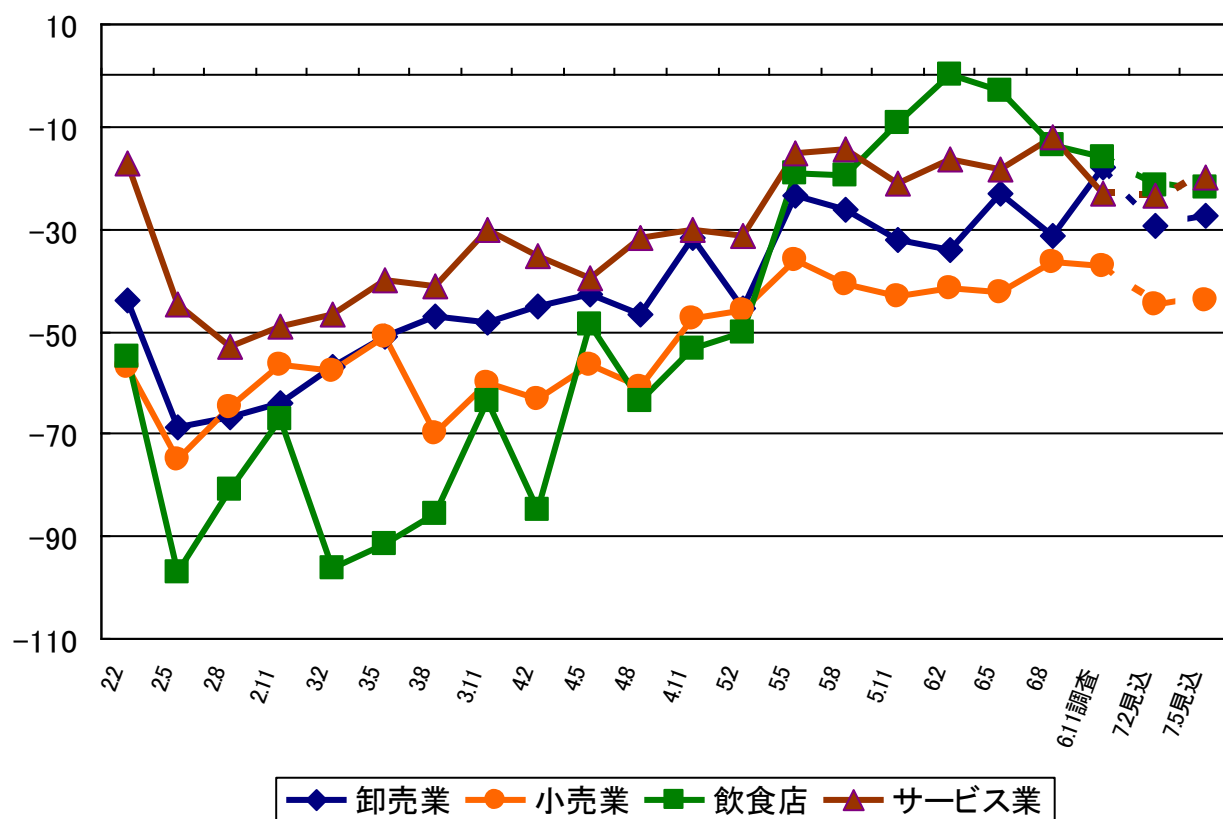
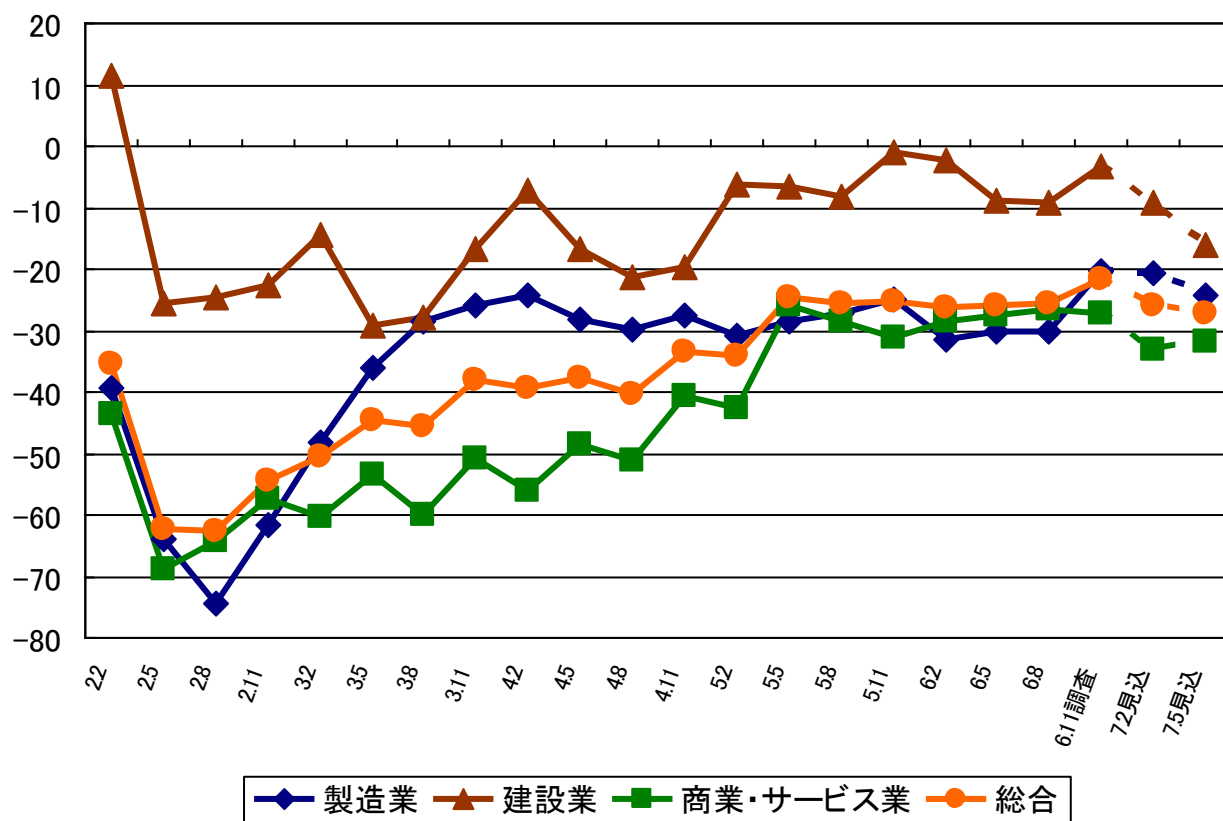
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		270	134	91	102	101	100	101	108	1,007
業況判断	現在の業況	▲22.2	▲27.6	▲27.5	▲30.4	▲11.9	▲15.0	▲15.8	▲21.3	▲21.7
	3ヶ月後の業況	▲29.0	▲24.4	▲26.4	▲35.0	▲21.4	▲22.7	▲20.2	▲23.6	▲25.9
	半年後の業況	▲32.8	▲26.4	▲26.4	▲31.3	▲15.3	▲29.6	▲26.5	▲20.8	▲27.2
経営状況	売上	▲4.1	▲21.1	▲8.9	▲16.7	▲4.0	▲14.1	▲14.9	▲1.9	▲9.9
	採算	▲24.2	▲28.8	▲27.8	▲30.0	▲21.2	▲20.2	▲28.7	▲26.2	▲25.7
	引き合い／客数	▲11.0	▲16.8	▲18.9	▲17.2	▲7.1	▲16.2	▲11.9	▲15.0	▲13.7
	単価	4.1	▲6.1	12.5	5.2	12.0	7.2	4.0	7.5	5.1
	仕入価格	▲70.8	▲75.0	▲67.4	▲75.8	▲77.8	▲71.7	▲62.6	▲82.1	▲72.7
	資金繰り	▲25.0	▲18.9	▲21.1	▲25.0	▲24.0	▲25.3	▲26.7	▲37.1	▲25.2
	残業	▲5.7	▲15.3	▲4.4	▲11.0	▲9.2	▲22.4	▲9.2	▲11.2	▲10.4
	設備稼働	2.5	▲16.1	▲8.1	▲10.6	▲22.0	▲8.0	3.8	▲20.5	▲8.0
前期経営実績	売上水準	▲17.7	▲36.1	▲20.0	▲24.5	▲15.0	▲21.4	▲19.0	▲19.6	▲21.5
	利益水準	▲6.4	▲17.4	▲12.5	▲10.0	▲9.0	▲8.2	▲14.9	▲20.8	▲11.6
	在庫	5.9	7.0	4.6	3.0	4.1	12.6	5.0	6.7	6.1
	投資	▲9.1	▲5.5	▲9.1	▲14.4	▲7.1	▲17.7	▲7.0	▲6.7	▲9.3
	雇用状況	▲29.4	▲24.4	▲35.6	▲31.6	▲31.3	▲29.9	▲23.8	▲25.7	▲28.8

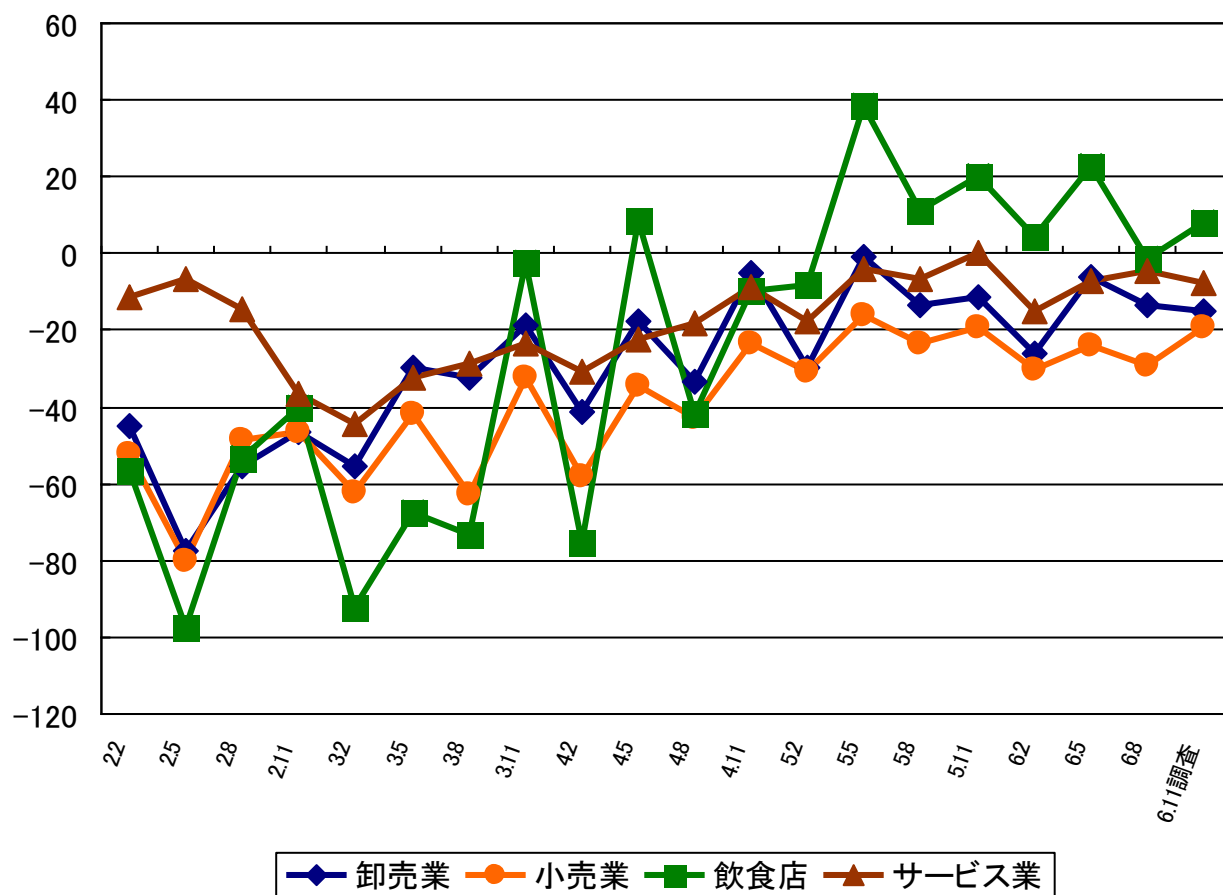
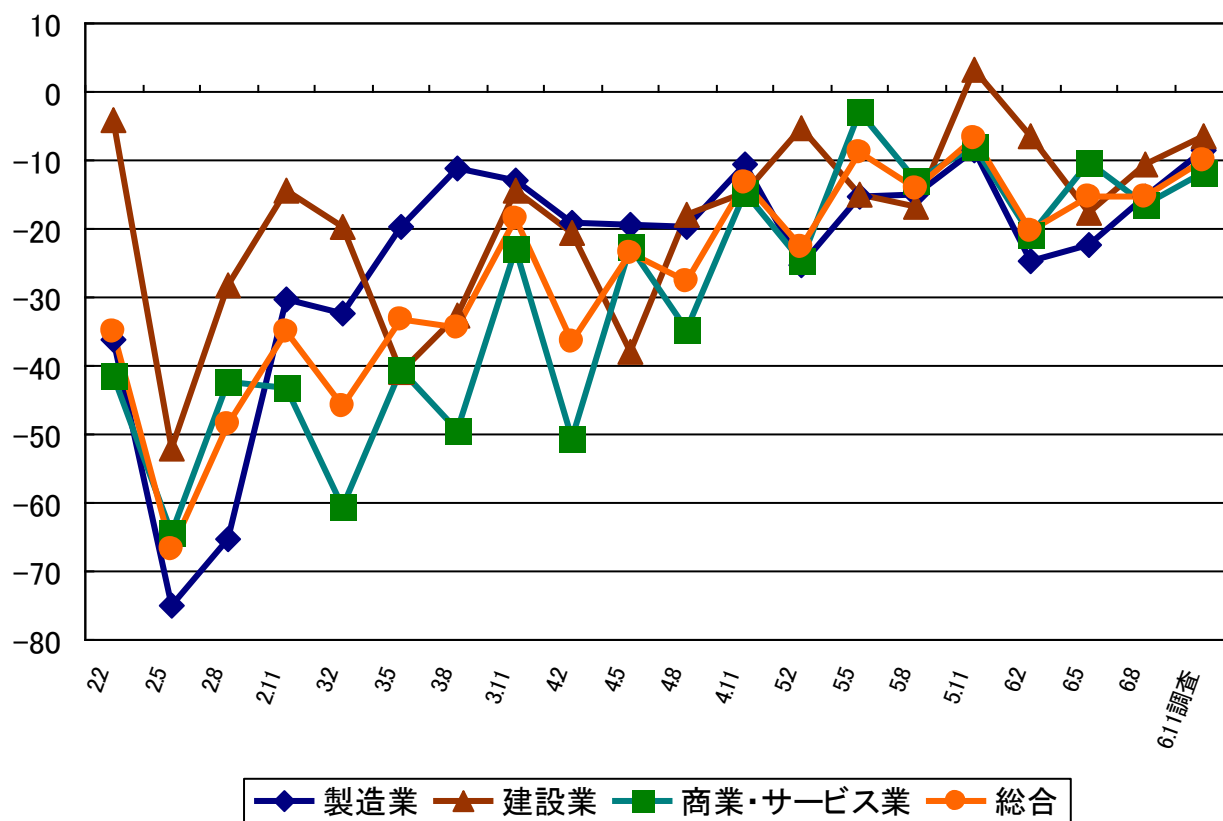
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		89	82	53	131	355
業況判断	現在の業況	▲18.0	▲15.9	▲18.9	▲25.2	▲20.3
	3ヶ月後の業況	▲18.8	▲10.1	▲25.0	▲26.8	▲20.6
	半年後の業況	▲27.1	▲10.4	▲38.5	▲25.0	▲24.3
経営状況	売上	▲11.4	2.5	▲17.0	▲10.2	▲8.6
	採算	▲27.3	▲9.9	▲34.0	▲23.0	▲22.7
	引き合い／客数	▲5.7	▲5.0	▲19.2	0.0	▲5.5
	単価	12.5	14.8	22.6	14.3	15.2
	仕入価格	▲71.3	▲70.4	▲65.4	▲70.2	▲69.8
	資金繰り	▲31.8	▲12.3	▲23.1	▲27.8	▲24.5
	残業	▲11.4	▲9.9	▲5.7	▲4.8	▲7.8
	設備稼働	▲16.1	1.3	▲13.2	▲8.9	▲9.0
前期経営実績	売上水準	▲26.1	▲13.6	▲17.0	▲30.2	▲23.3
	利益水準	▲20.9	0.0	▲9.4	▲20.6	▲14.2
	在庫	12.9	12.3	11.8	11.3	12.0
	投資	▲8.1	2.5	▲3.8	▲12.1	▲6.4
	雇用状況	▲25.6	▲19.8	▲15.4	▲19.2	▲20.3

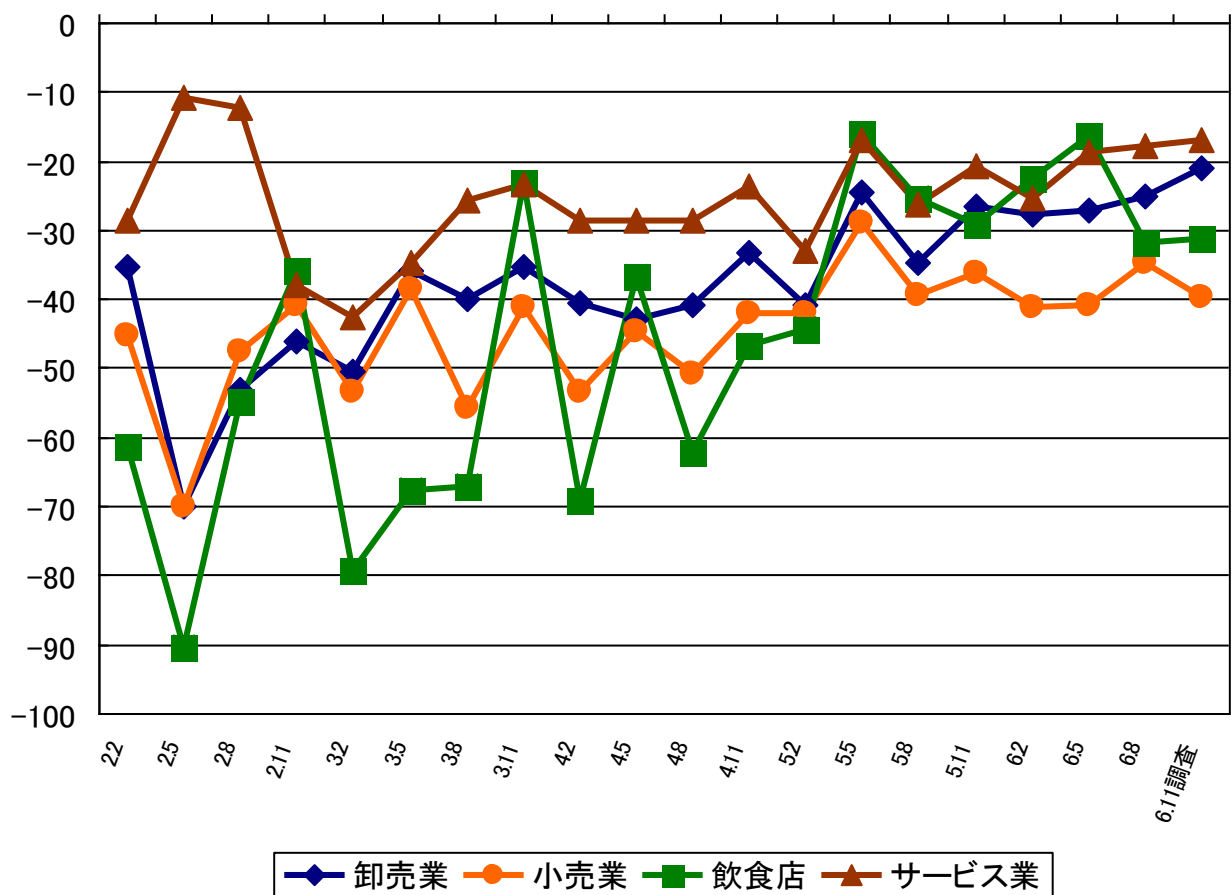
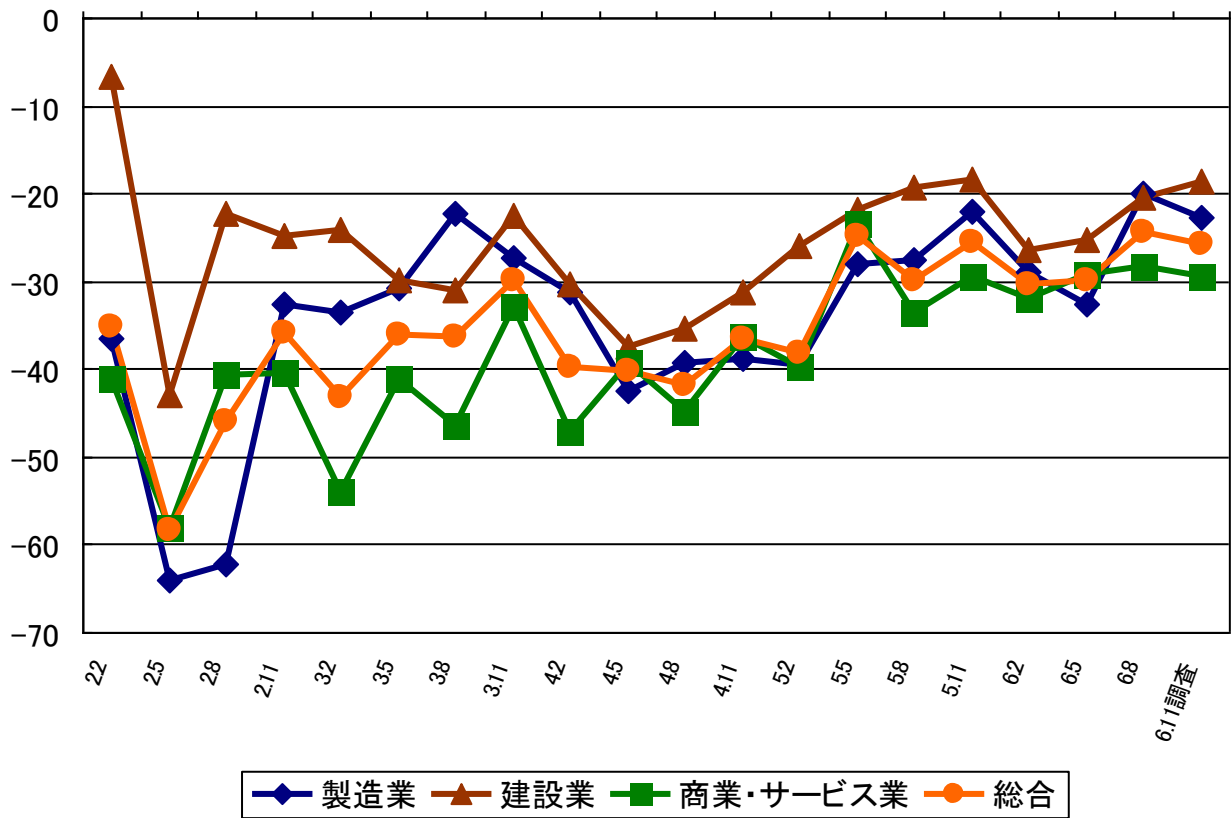
業況DIの推移



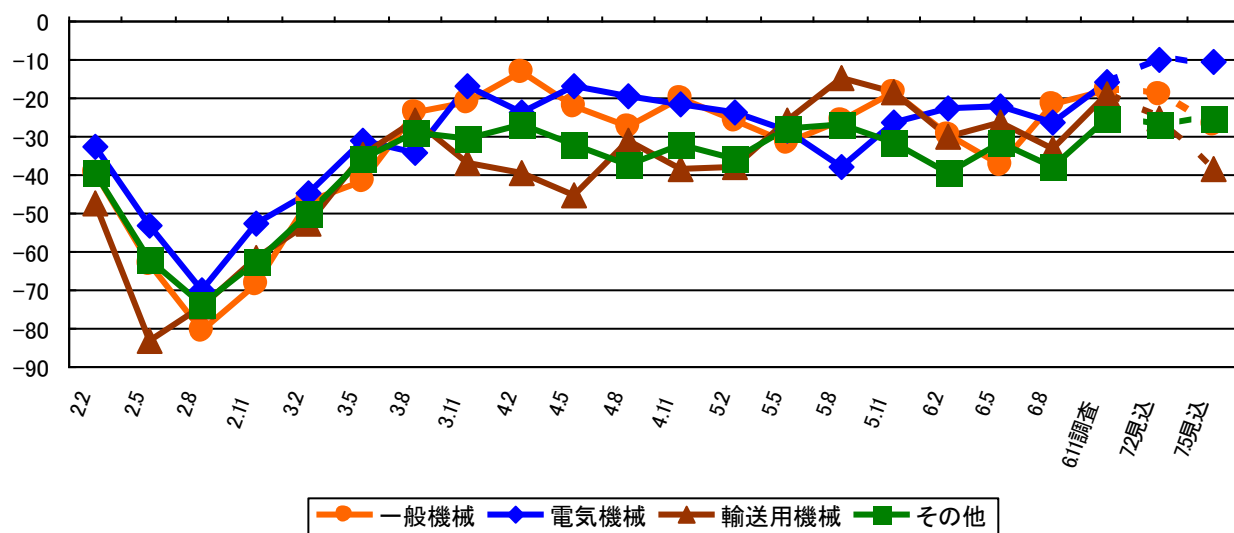
売上DIの推移



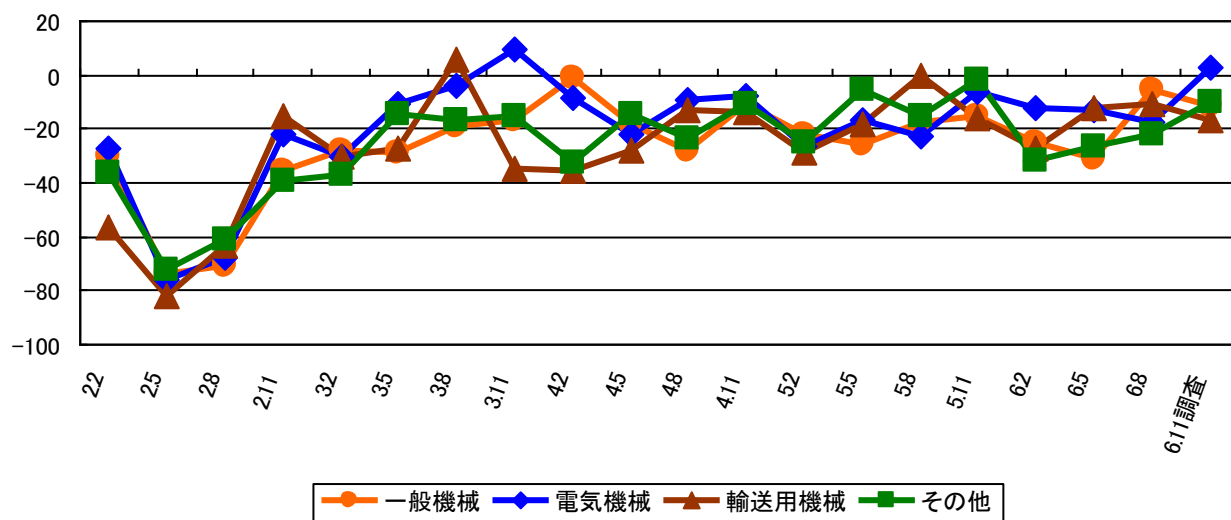
採算DIの推移



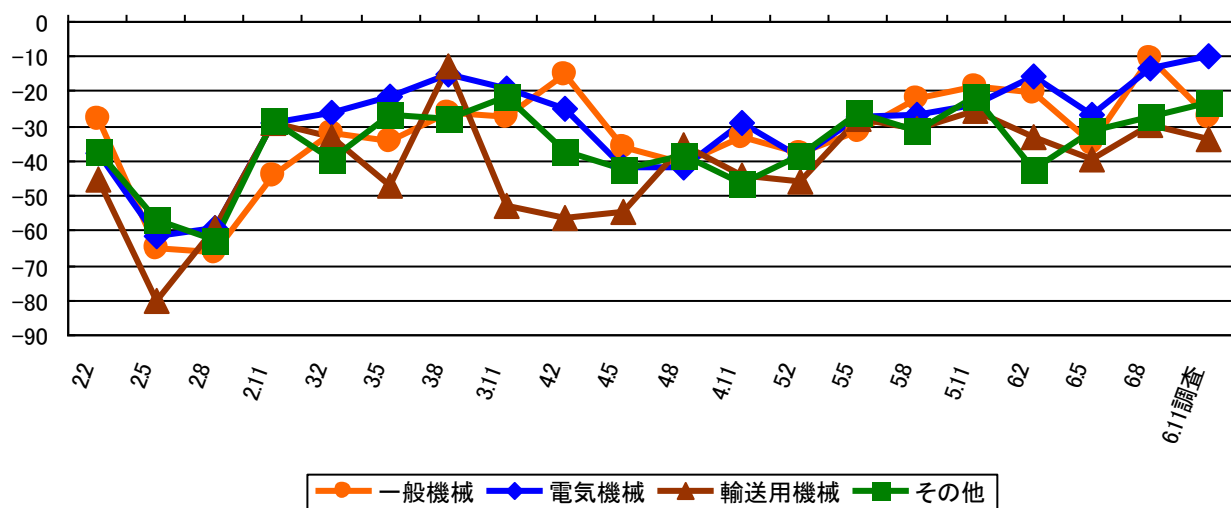
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「光熱費の上昇、最低賃金の値上げ等、コストばかり増加して、利益の減少が顕著になると考えられます。」
「少子化の加速により、工場のある神奈川、東京近郊では、人材の雇用が困難である。福島に工場を移転し、製造スペースの拡充と人材の新規開拓を検討している。」
「メディカル関連が好調。」
「中国、アジア向け輸出好調。（主にスマホ用ネジの金型。）」
「仕事はあるが、毎年個数が減少していて、その上、材料の質が悪く、製品になるまで時間がかかるが、遅れた分の単価をもらえない。」
「生成AI関連の装置部品の受注が増えている。売上増加に繋がるため良い傾向ではあるが、仕入れ部品の購入が先行するため一時的に資金繰りが窮屈になる。」
「少し仕事が動き始めた感がありますが、まだまだ先は不透明です。柔軟に対応できる組織作りを目指しております。」
「国内・海外向け乗用車、トラック、建機、工作機械などの需要縮小及びエンドユーザーの在庫過多により、受注状況は悪化している。下期顧客生産計画も下方修正が生じている。」
「短期間（2～3か月）は、受注がありましたが、その後の受注が分からない。先行きが見えない。」
「輸入仕入のため、長引く円安経済で大ダメージ。」
「電力設備の関連部品が増加しているが、半導体・産業機械の関連が、この先減少する。」
「自動車産業の受注回復が遅れています。また、円安による海外生産品の仕入れ価格上昇の影響を受けています。」
「社内生産体制の見直し、営業戦略の改善を行っており、問題点を抽出。徐々に改善しつつあり、直近3か月は厳しくも、半年後は利益率を上げられると考えている。」
「9月までは、自動車関連、半導体関連共に堅調に推移してきたが、10月に入って半導体関連で急ブレーキがかかった感じで、大幅に増えていた受注が半減した製品もでてきている。11月から年末に向けて、業績がどうなっていくのか、全く読めない状況。」
「半導体、EV関連の投資が延期、中断している。」
「人材不足、原料高騰、設備の老朽化による修繕の増大、先行きの不透明さが今以上に増している。」
「10月頃から見積もりの件数が減少していて、1月以降の受注が見通せない。」

<建設業>

「人手不足で工期に間に合うか不安である。」
「売上が去年より減っている。」
「働き方改革で、工期（建設）が大幅に伸びてしまっている。1.3倍～1.4倍程。着手も遅く、見込み現場は多いが、動かない。職人確保の為に現場の値決めは早いですが、着手しない。」
「リフォーム等の受注がある以外、新築工事はなしです。」
「官公庁の受注増のため、来期は売上高増の見通しです。」
「受注機会はあるが人手不足で、他県から応援をもらっているが、受注拡大は難しい。」
「工事入札が順調。」
「受注は順調に推移している。人材不足の不安はあり。」
「求人を出しても、応募があまりない。」
「監督員の高齢化による補充社員の不足。」
「受注がコンスタントに取れば、人員の補強をしていきたいところですが、人手不足の為、必要になってから募集をして、人が集められるかどうか不安なところです。」

<卸売業>

「鋼材については、資源単価のピークは既に過ぎ、需要減もあり、デフレの入口に入った感があります。」
「猛暑の影響が大きかった。」
「新規商材を扱うことにより取引先の拡張ができた。」
「一番は、人手不足です。原価が上がっている。」
「とにかく、スチール家具、その他鋼材を使用する物の全体量が落ちているために、受注が少ない。」
「円安による輸入商品のコスト高により、利益が減少しておりますが、可処分所得も増えていない現状を考えると、卸額にも転嫁できておりません。」
「LED化による受注減。電子部品メーカーに材料を納入しているが、メーカーもあまり良くない。」
「仕入価格が高くなっているため、利益率が悪くなっている。今後も続くと思う。」
「マンションや住宅のリフォームが増えてきている。」
「仕入単価があがっている割には、売上額に反映しない。」
「半導体関連装置の受注が先送りの状態のため、不変の状況。」
「売上は減だが、利益率は良くなっている。」

<小売業>

「小売業としては、仕入先がなくなり、商品が入ってこなくて心配です。大手には配送はしていますが、個人商店にはルートが無いので、配送できないと言われました。」
「一時低調だったネット通販が回復基調。実店舗は来客が減少。」
「コロナ禍以降、消費（売上高）は戻って来ていない。」
「衣料品小売業は、売上が天候に左右されやすい。昨年あたりから年2シーズン夏9か月、冬3か月になってしまっている。その分、商いが難しくなっている。」
「最低賃金の上昇が、経営に影響している。」
「商品構成の見直しを検討中。」
「車用品市場の悪化、さらに大手販売店との価格競争による利益悪化と厳しく、今後も続く。」
「車で仕事なので、ガソリンが高く大変。人員を増やさなければ、売上が上がらない。人材が入ってこない。」
「米の仕入れが、5年産米の不足で高騰し、大変苦労しましたが、また6年産米が高騰しており、仕入れが満足にできずに、また苦労しています。」
「原材料費の高止まりで、利益の確保が難しくなっている。人件費の上昇で、経営を苦しくさせられている。」
「利益率が上がりず資金繰りが厳しい。借入を予定より前倒ししなければ間に合わないと言われる。」
「食品の高騰により、世間の買い控えがあり、売上が上がらない。」
「直売店の売上が下がっている。卸業に力を入れる。販路を広げる。」
「お天気の具合によって、売上も変わってきます。これからは、多少違うと思います。景気が良くなってほしいです。」

<飲食店>

「人件費が高くなり、仕入額の高止まりで、困っています。米価は、前期の1.5倍。今までは大盛無料で頑張っていましたが、値上げしました。何だか、悔しい気分です。」
「パートが不足していて、営業時間を短くするか考え中。」
「物価高と人件費高騰で、収益が圧迫されている。」
「サラリーマン家族の来店が、少し減っている。」
「店主および、従業員の高齢化や資金繰りで営業が難しい。閉店したくても状況が悪くて、ただ営業するのみです。」
「時給が高くなり、人を雇えない。」
「コロナから変わらない。」
「近くに大手の店ができたので心配です。」
「103万、130万の壁がある限り、アルバイト、パートの人手不足はなくなる。」
「ほぼ全ての食材が高騰しているので、お客様には事情を申し上げ価格を改定しました。皆さんに「しょうがないよね」と理解をして頂きました。仕入先も色々大変そうなので、可能な限り売上に協力しているつもりです。仕入先が廃業されるのも困りますし。」
「宴会、接待の減少。」
「仕入れや光熱費が高騰しているので困る。人件費も上がっているが、あまり値上げはできない。」
「観光地での営業となり、インバウンドによる利用次第で今後の業績が不透明。」

<サービス業>

「人材不足。（整備士。）」
「常連客の高齢化に伴う減少傾向。老朽化のため、工事費増。」
「お客様の売上が減っている為、今後も見通しが悪い。」
「コロナ禍からは脱却したと思いますが、それ以上には伸び代がない。」
「元々、あまり大きな変化のない業態だが少子化対策は急務。」
「介護報酬の基本報酬が下げられた上、賃金の値上げは待ったなし。良くなる理由がない。PCも最新のものにしておかなくてはならない。」
「ここ数か月人員不足で、お客様獲得ができず、その影響で3か月後は厳しい。ただ、単価はアップしているので、売上は前年と変わらない。」
「人員の確保が売上増の要因になっている。」
「今後は、人手不足が生じて、業績不調が予想される。」
「既存飲食店の売上が減少していて、なかなか前年度並みの売上にはいきません。ECサイトは好調です。」
「顧客での製品開発の見直しが行われて、弊社負担分が大幅に縮小した為、発注額が激減。」
「酷暑の影響で、今まで繁忙期だった7～8月は閑散期になってしまったが、9月以降は人流が活発となり、売上も回復。業績は良好傾向となっている。」
「サービスの対象、サービスの形態を変更しているプロセスで成果となって現れるまで少し我慢かと考える。」